

携帯電話用 Java 分散オブジェクト技術 iHORB

総合情報学部 情報科学科 大西研究室 onishi@mis.ous.ac.jp
有限会社 アイトレック・シックス(株)・(株)NTTドコモ中国

Keywords : 携帯電話、インターネット、Java 言語、分散オブジェクト技術、手話、ユビキタス

1. 研究目的

まもなくユビキタス社会が到来する。携帯電話は間違いなくその主役の装置の一つになるであろう。携帯電話をクライアントとする数多くのクライアント/サーバシステムを構築しなければならない。いかに信頼性高く効率良くソフトウェアを開発できるかが最重要課題である。その解決の「銀の弾丸」を目指してHORBをベースに携帯電話用及び組み込み用のJava分散オブジェクト技術iHORBを研究開発している。

iHORBの技術情報は大西研HP、<http://mascot.mis.ous.ac.jp/>に公開している。

2. iHORBの応用事例

iHORBの利用促進を目的に、下記の各種iホプリ(iHORBを利用したiアプリのこと)を大西研究室の学生が短期間で開発した。大西研HPに技術資料やソースプログラムを無料で公開している。

- ・ゲーム用 : Game マインスイーパーに似たゲーム BallMAX ラケットでボールを跳ね返し、敵に当たる
- ・コミュニケーション用 : リカチャット 自分専用の個室で秘密チャットとオープン室で公開チャットができる
RikaMailer 携帯電話でどこからでも自分のPCを利用してメールの送受信ができる
- ・通信制御用 : iTelnet 携帯電話からテルネットでサーバPCをコントロールできる
- ・業務用 : iDB 携帯電話からサーバPC上の自分専用のデータベースを作成、登録、検索、削除ができる
- ・教育用 : iMASCOT 携帯電話で手話を学習できる

3. 大西研でのiHORB利用の最新研究

真のユビキタス社会を実現するには、どうしてもユニバーサルデザインが必要である。大西研は携帯電話のユニバーサルデザイン化を目指して、iHORBを利用した手話携帯電話の研究を進めている。



図1. 手話チャットの画面

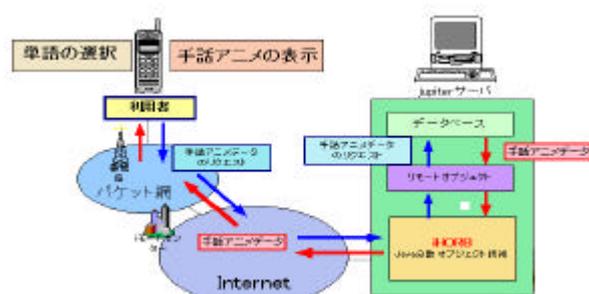


図2. 手話チャットのシステム

4. iHORBの運営形態

右図はiHORBの運営形態である。教育・研究・個人の利用にフリー版を提供している。大西研HPからダウンロードが可能であり、岡山理科大学HORB研究会がサポートしている。商用版はベンチャーのアイトレック社が開発・保守、シックス社が販売を担当している。大西は平成15年度産学官連携推進会議で経団連会長賞を受賞したHORB Openの運営委員である。

* HORBは産総研の平野主任研究員が開発したJava分散オブジェクト技術である。

